

～最新型 2 管球搭載心臓CTスキャナー

SOMATOM FORCE が導入されました～

近年、循環器領域の画像診断特にCT及びMRI装置の進歩は、著しいものがあります。これらの装置は日常臨床において欠かすことのできないものとなっています。

循環器領域において多列CTは、冠動脈造影や広範囲の血管造影において極めて有用であり、検出器の多列化が年々進んできました。しかし、64列CT以降は、画像として画質(空間分解能)及びシャッタースピード(空間分解能)の改善には限度があり不整脈のある方や息止めの困難な方では検査しにくいという弱点がありました。

画質を改善し、撮影時間を短くするために2管球CTが開発されました。90度の回転で画像を得ることが可能となります。さらに検出器の多列化、管球の回転速度の進歩、画像処理ワークステーション能力の向上により短時間で広範囲の撮影が可能となりました。また、範囲を絞ることにより高画質な画像を得ることができるようになりました。

今回当院では、2015年1月末現在日本で1台しか稼働していない世界最速の2管球多列CT(192スライス×2)が導入されます。低被爆かつ短時間の撮像で従来よりも鮮明な画像を得ることができます。冠動脈CTの撮影においては、不整脈のある方や息止めの出来ない方に有用であり、またβ遮断薬を使用せずに撮影することができます。

また、条件次第では0.15秒で撮影が可能のため造影剤量、被爆量ともに大きく軽減することが可能です。

また、一秒あたり78.7cmの範囲の撮影が可能のため、短時間で(低被爆かつ少ない造影剤で)広範囲の撮影が可能となります。

最新の2管球多列CTの導入により、患者様に優しくかつ詳細な画像による診療が可能となります。



西宮渡辺心臓・血管センター